

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	86	海外農業研修生受入支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア			
担当部課名	農林水産部営農支援課	事業実施(予定)年度	H30 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-1-(6)、Ⅲ-7		
事業内容	研修生受け入れに対する農家負担を軽減するため、受け入れに係る費用の一部を助成する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	41,755		24,148		25,912
		(b) 予算現額	41,755		24,148		25,912
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計(b+d)	41,755	0	24,148	0	25,912
	B. 執行済額		35,813		10,030		12,268
	うち交付金充当額		28,651		8,024		9,814
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		85.8%	#DIV/0!	41.5%	#DIV/0!	47.3%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> 令和1年度予算額は、平成30年度並みの予算額である。 令和1年度予算の執行率は47.3%であり、主に技能実習生の入国遅れにより事業量が減少したことによる補助金の執行残である。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・監理団体の現地確認	目標	—	—	4回以上	4回以上	
		実績	—	—	月1回以上	月1回以上	
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 技能実習については、60戸の農家において外国人技能実習生98名の受入れを実施した。 監理団体の現地確認を月1回以上実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H23年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	【R1成果目標】 海外研修生受入により地域の活性化が図られたとする実施市町村の割合	目標	—	—	80%	80%	80%
		実績	—	—	90%	90%	—
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 受入市町村(16市町村)にてアンケートを実施したところ、実績は90%となり、目標を達成した。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 技能実習生の受入れを行うにあたっては、入管法や技術・技能実習制度等に精通した監理団体のサポートが不可欠であり、また、地域での受入れ状況の把握については、市町村の協力が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能実習生の受入れは地域の活性化に寄与しており、今後も受入れの拡大を支援していく必要がある。しかしながら、受入れに係る管理団体及び市町村の協力が重要であり、関係機関の連携強化を図る。

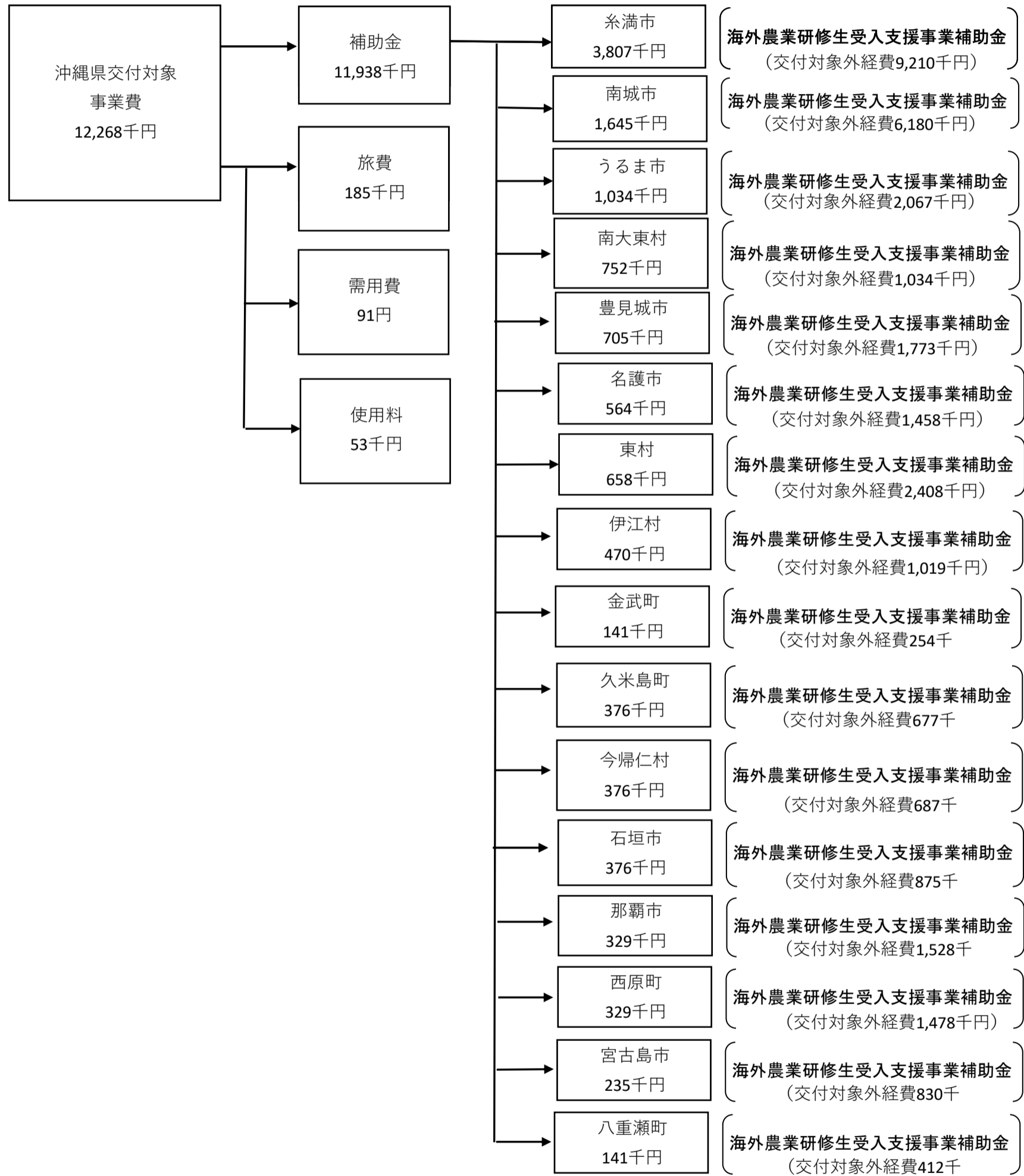
今後の取り組み方針

・技能実習生受入による地域の活性化を図るため、受入れの拡大支援を行う。具体的には、受入れに係る費用の一部について助成を行う。また、円滑な技能実習が実施できるよう関係機関との連携を密に行っていく。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
33,785	12,268	9,814	2,454	0	0	21,517



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施主体では、150日以上就農、就農5年未満等の要件等確認を行っている。 ○費目・使途については、事業達成の観点から、必要なものかどうか額の確定時において支出等に関する書類検査の上、適正と認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

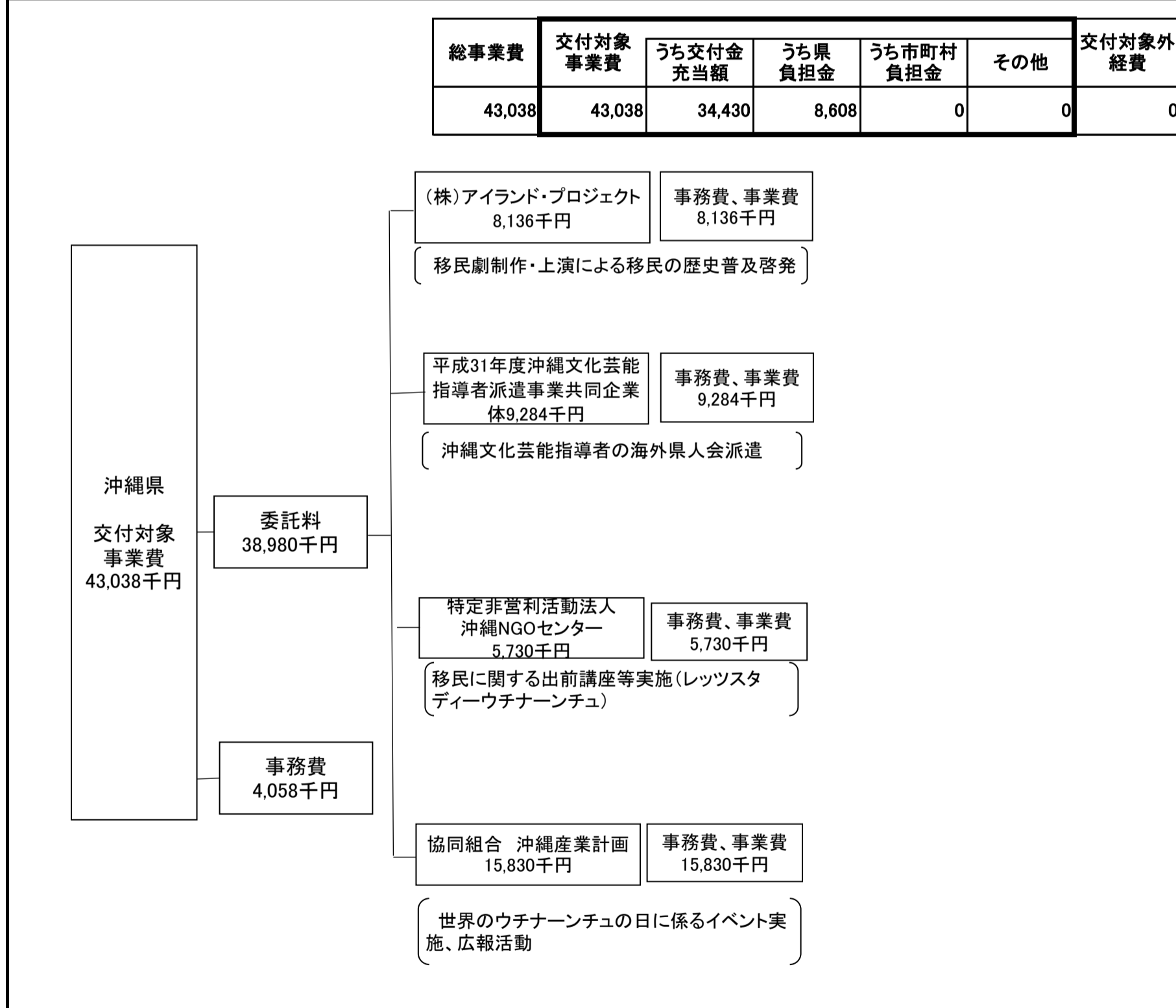
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	205	世界のウチナーネットワーク強化推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア			
担当部課名	文化観光スポーツ部 交流推進課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進		
事業内容	「世界のウチナーンチュの日」が制定されたことを踏まえ、同記念日の定着化に向けた取組みを推進することで、ウチナーネットワークの継承・発展・強化を図る。具体的にはSNSやWEBサイト及び各種メディアを活用した周知広報活動等を展開し、併せて、世界を舞台に活躍するウチナーンチュを招聘したトークイベントや、移民の歴史を題材とした演劇公演及び移民の歴史等に関する出前講座、並びに海外県人会イベントへの芸能指導者派遣等を実施する。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位：千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	100,422		40,341		44,700
		(b) 予算現額	100,422		40,341		44,700
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	100,422	0	40,341	0	44,700
	B. 執行済額		97,129		39,466		43,038
	うち交付金充当額		77,703		31,572		34,430
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.7%	#DIV/0!	97.8%	#DIV/0!	96.3%
予算の状況の説明		本事業はH29年度からスタートしており、執行状況も毎年度95%超で順調に執行している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	①世界で活躍するウチナーンチュのライフワークや貴重な経験を学ぶことのできる若者向けのシンポジウムの開催	目標	-	-	シンポジウムの開催	シンポジウムの開催	
		実績	-	-	シンポジウムを開催した	シンポジウムを開催した	
	②各種広報媒体を活用した「世界のウチナーンチュの日」の広報活動の実施	目標	-	-	広報活動の実施	広報活動の実施	
		実績	-	-	広報活動を実施した	広報活動を実施した	
	③WEBサイトの運営及び歴史の理解や次世代への継承に資するコンテンツの制作・発信	目標	-	-	コンテンツの制作・発信	コンテンツの制作・発信	
		実績	-	-	コンテンツの制作・発信をした	コンテンツの制作・発信をした	
	④「世界のウチナーンチュの日」に関連して開催される3箇所海外県人会のイベントに、沖縄からの指導者を派遣する。	目標	-	-	指導者の派遣	指導者の派遣	
		実績	-	-	指導者を派遣した	指導者を派遣した	
	⑤学校等における出前講座の実施及び講座等の実施を担う講師の養成	目標	-	-	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	
		実績	-	-	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	
	⑥本県の移民の歴史や世界中に在住するウチナーンチュを題材にした舞台公演の実施	目標	-	-	舞台公演の実施	舞台公演の実施	
		実績	-	-	舞台公演を実施した	舞台公演を実施した	
⑦「沖縄移民」や「世界のウチナーンチュ」関連の場所、名所等を巡るツアーの実施	目標	-	-	ツアーの実施	ツアーの実施		
	実績	-	-	ツアーを実施した	ツアーを実施した		
達成状況説明	<p>本事業では、10月30日「世界のウチナーンチュの日」を中心に、県独自、または市町村と連携して県内での関連するイベントを開催した。</p> <p>①世界で活躍するウチナーンチュによるトークイベントを10月30日に開催した。</p> <p>②①とあわせて広報活動を10月に集中して行った。</p> <p>③WEB、SNSを活用して通年で情報発信を行った。</p> <p>④海外県人会が主催するイベントについては、イギリスのロンドン、オーストラリアのシドニー及びペルーのリマに芸能指導者を派遣した。</p> <p>⑤出前講座については、小中学校に加えて、指導者育成も実施した。</p> <p>⑥移民劇については、ペルー移民の功労者である伊芸銀勇氏の半生を描いた劇を上演した。</p> <p>⑦ツアーについては、⑥の移民劇のモデルとなった伊芸銀勇氏の故郷宜野座村でのバスツアーを実施した。</p>						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (〇〇年度)
	①来場者に対し、世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—	—	80%	80%	—
		実 績	—	—	90%	80%	—
	②「世界のウチナーンチュの日」県民認知度	目 標	—	40%以上	45%	45%	—
		実 績	—	43%	55%	40%	—
	③-1 県人会等との新たな取組数(県以外の主体による取組)	目 標	—	計15カ所(海外5・県内10)	海外5(累計18)、県内10(累計20)	海外5(累計27)、県内10(累計32)	—
		実 績	—	計23カ所(海外13・県内10)	海外9(累計22) 県内12(累計22)	海外10(累計32)、県内22(累計44)	—
	③-2 WEBサイトアクセス数	目 標	—	—	19,000件以上/年	34,000件以上/年	—
		実 績	—	—	44,017件	54,443件/年	—
	④派遣先の県人会における沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—	—	—	80%	—
		実 績	—	—	—	97%	—
	⑤受講者に対し、沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—	—	80%	80%	—
		実 績	—	—	100%	100%	—
	⑥鑑賞者に対し、沖縄の移民の歴史に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—	—	80%	80%	—
		実 績	—	—	88%	91%	—
⑦参加者に対し、沖縄の移民の歴史に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目 標	—	—	80%	80%	—	
	実 績	—	—	90%	93%	—	
進捗状況説明	<p>①はアンケートの結果、80%が世界のウチナーンチュの日に関する関心が高まったとの回答し、目標を達成した。</p> <p>②はアンケートの結果、世界のウチナーンチュの日の認知度が40%となり、目標を下回った。</p> <p>③-1は、海外県内あわせて32件の取組がなされており、目標を達成した。</p> <p>③-2は、WEBサイトについては、54,443件のアクセスがあり、目標を達成した。</p> <p>④はアンケートの結果、97%が沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったと回答しており、目標を達成した。</p> <p>⑤はアンケートの結果、100%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。</p> <p>⑥はアンケートの結果、91%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。</p> <p>⑦はアンケートの結果、93%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・市町村や海外県人会に対し、「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組の実施を呼びかけたところ、県内市町村等で22、海外県人会で10の新たな独自取組みが実施され、着実に「世界のウチナーンチュの日」が浸透しており、その結果移民の歴史啓発やウチナーネットワークに関する県民理解向上につながっていると考えられる。</p> <p>・「世界のウチナーンチュの日」認知度について県民を対象とした調査を行ったところ、令和元年度は前年度比マイナスとなり、県内における幅広い世代にはまだ普及していない状況が窺えた。</p>	<p>・「世界のウチナーンチュの日」に因んだ独自の取組を増加していくためには、他国地域において活発に活動する沖縄県人会の状況を共有していくことが有効と考えられることから、SNSやWEBを活用した県内・海外のウチナーネットワーク関係者による相互交流が可能なプラットフォーム構築を進める必要がある。</p> <p>・認知度が低下した理由として、10代の認知度が低かったことが大きな要因の一つと考えられるため、若年層に向けた情報発信を強化する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組の実施を、県人会や市町村に限らず、民間団体や企業等に対しても幅広く実施を呼びかけ、取組数と認知度の双方を増加・向上していく。</p> <p>・SNSやWEBを活用し、国地域を越えてお互いの活動状況等が共有可能な相互プラットフォーム構築を進めるとともに、若者の活用頻度が高いinstagramのアカウントを開設し、若年層に向けた情報発信を強化していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

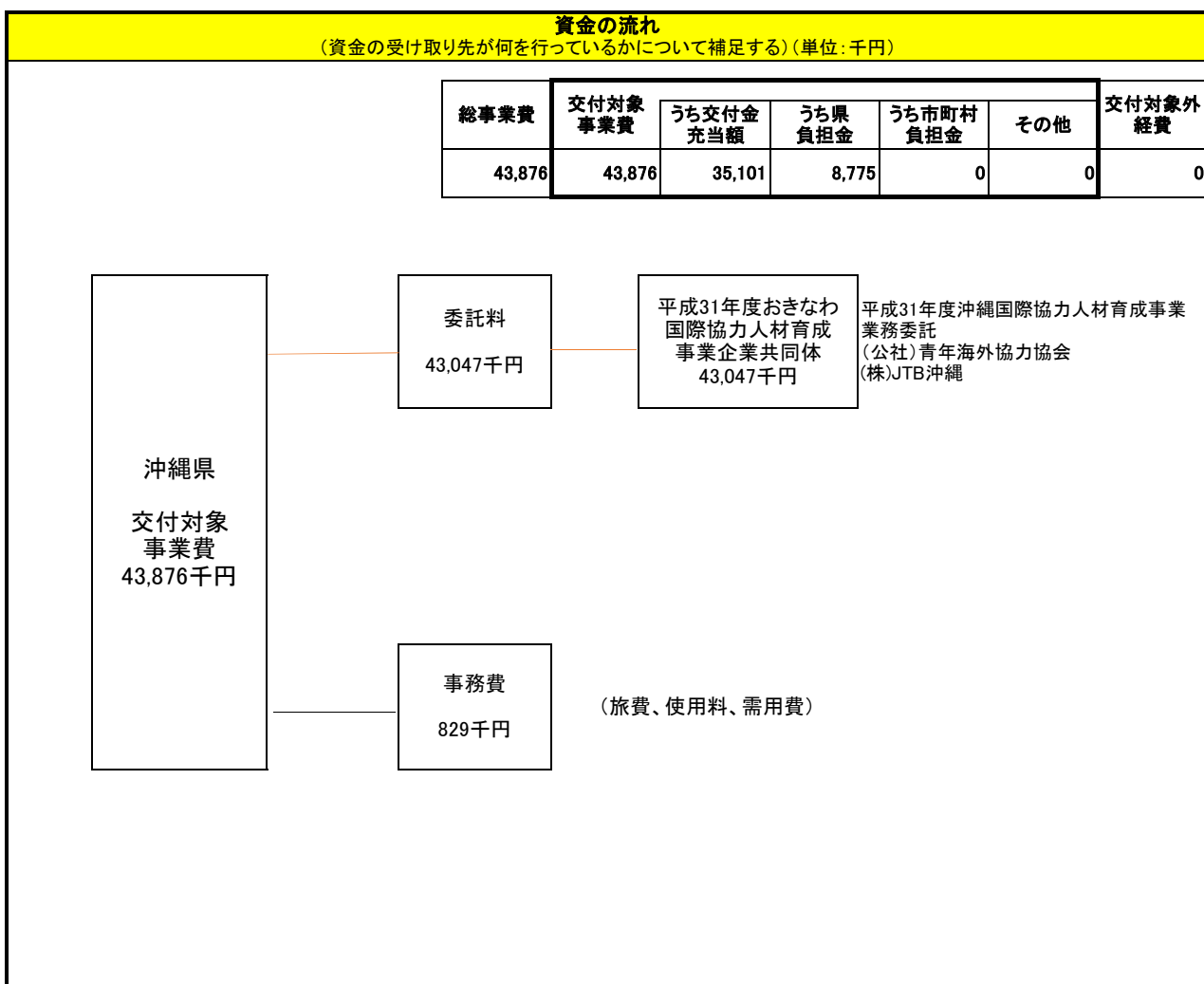


資金の流し、費用目録	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	204 おきなわ国際協力人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-イ			
担当部課名	文化観光スポーツ部 交流推進課	事業実施 (予定)年度	H25 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	世界と共生する社会の形成 Ⅲ-7		
事業内容	国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成を図るため、県内高校生を開発途上国に派遣する国際協力レポーターや国際協力出前講座等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	46,189		38,672		44,900
		(b) 予算現額	46,189		38,672		44,900
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	46,189	0	38,672	0	44,900
	予算額・ 執行額	B. 執行済額	43,854		37,649		43,876
		うち交付金充当額	35,083		30,119		35,101
		C. 次年度繰越額			0	0	0
		執行率(%) (B/A)	94.9%	#DIV/0!	97.4%	#DIV/0!	97.7%
予算の状況の説明	・予算額は、国際協力レポーター事業及び国際協力理解促進出前講座にかかる委託料と旅費等の経費を計上。 ・執行率は、97.7%となり、概ね計画的に執行できた。旅費等の執行残による不用額(263)、海外派遣レポーター事業の派遣にかかる委託料の残(762)が発生したことによる。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	①途上国に派遣する高校生数 39名(13名×3ヶ国)	目標	39名	39名	32名	39名	
		実績	39名	39名	32名	39名	
	②国際協力出前講座実施校数 20校(受講人数:50名×20校)	目標	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	
		実績	23校 (2,744名)	22校 (2,098名)	21校 (2,895名)	20校 (2,456名)	
達成状況説明	・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」及び県内高校での国際協力に関する出前講座を実施する「国際協力理解促進事業」を、平成31年度おきなわ国際協力人材育成事業共同企業体へ業務委託する形で実施した。 ・「国際協力レポーター事業」では、アジア・太平洋地域の開発途上国3ヶ国(ベトナム、カンボジア、フィリピン)へ各国13名、計39名の高校生を派遣した。 ・「国際協力理解促進事業」では、離島を含む県内中学校・高校20校で、青年海外協力隊経験者などによる出前講座を実施し、2,456名の生徒が受講した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (〇〇年度)
	①海外派遣により国際的な視野が広がった生徒の割合:80%以上	目標	—	100%	80%	80%	—
		実績	—	97%	100%	100%	—
	②出前講座の実施により国際協力の必要性が理解が深まった生徒の割合:80%以上	目標	—	100%	80%	80%	—
		実績	—	95%	97%	98%	—
	進捗状況説明	保護者・参加者へのアンケート調査の結果、成果目標は①の事業で100%、②の事業で98%以上と高い数値になっており、順調に進んでいる。今後も引き続き、受講対象者に合わせた講座内容等の調整など、きめ細かい取り組みを実施する。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①受講対象者に合わせた講座内容の調整など、きめ細かい取り組みが求められている。</p> <p>②海外派遣に関し、近年の国際情勢の動向・変化や感染症の状況など、安全な派遣国・視察先の選定、視察先との調整は海外の事情に通じた適切な実務能力と臨機応変な対応が求められている。</p> <p>③出前講座については、国際協力リポーター派遣参加生徒がいる高校以外からの開催依頼が少ない状況である。</p>
今後の取り組み方針	
<p>①海外派遣においては、引き続き、事前学習・事後学習の中で、開発途上国の現状と県内の現状をリンクして考えられるよう、国際協力を身近に捉えることが出来るプログラムを組むよう努める。また、出前講座においては、受講者の関心度や規模等に合わせて内容を工夫するよう努める。</p> <p>②海外派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報の把握に努めるとともに、臨機応変に対応する。</p> <p>③出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、従来応募がなかった学校へのアプローチを積極的に図る。</p>	



資金の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等による証憑類を確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	